

ホンモロコふ化仔魚の放流場所の違い による放流効果の比較

吉岡 剛・三枝 仁

◆背景・目的

滋賀県では、減少したホンモロコ資源の回復を目的として平成18年度より「ホンモロコ資源緊急回復対策事業」に取り組んでいる。当該事業は、姉川人工河川飼育池で親魚を養成し、ふ化仔魚を大量に琵琶湖へ放流する計画である。ふ化仔魚の放流場所としては、天然産卵が確認されている地点が好ましいと思われる。しかし、当該事業では放流が大規模となることから、近接の姉川人工河川地先に放流が可能であれば、大幅な作業時間の短縮および経費削減につながる。そこで、姉川人工河川地先と実際に産卵が確認された地点にそれぞれ別の標識を施したホンモロコふ化仔魚を放流し、その放流効果を比較した。

◆成果の内容・特徴

- ・放流地点は、姉川河口(姉川人工河川地先)と姉川河口から最も近いホンモロコ天然産卵場(湖北町地先)とした。
- ・放流は平成19年4月27～7月6日にかけて、姉川河口が37回、天然産卵場が33回とホンモロコの産卵に合わせて随時行った。
- ・姉川河口放流魚にはふ化直後(SR標識)、天然産卵場放流魚には発眼時(Dot標識)にそれぞれALCにて標識を行い、ふ化仔魚を姉川河口に約377万尾、天然産卵場に約367万尾を放流した。なお、この調査とは別に湖北町地先にSR標識魚11万尾、西浅井町地先にDot標識魚55万尾、SR標識魚55万尾のホンモロコが放流されている。
- ・放流効果の比較用サンプルは、平成19年10月29日～平成20年2月21日にかけて琵琶湖で漁獲された3799尾を用いた。標識魚は、SRが3尾、Dotが66尾確認できた。
- ・今回の調査では、姉川河口と天然産卵場にほぼ同数となるようにふ化仔魚を放流した。その結果、天然産卵場に放流した標識魚は66尾が確認されたが、姉川河口に放流した標識魚は3尾が確認されたのみであった。以上のことから、湖北町地先の天然産卵場に比べて、姉川河口の放流効果は低いものと考えられる。

◆成果の活用・留意点

姉川人工河川地先にホンモロコふ化仔魚を放流した場合、放流効果の低い可能性が示唆された。そのため、ホンモロコふ化仔魚は、天然産卵が確認されている地点まで輸送し、放流する方が高い効果が得られるものと思われる。

	放流尾数			再捕尾数
	姉川河口	湖北町	西浅井町	
SR標識魚	377万尾	11万尾	55万尾	3尾
Dot標識魚		367万尾	55万尾	66尾

図1. 標識放流尾数と再捕結果